



夢に向けてがんばる
皆さんを紹介します

ここで人としての最低限の礼儀を
学び、これから社会に出る中で、
胸を張って生きていってほしい。



私立・豊田大谷高等学校空道部

【写真:左上】

かわ した よし と
川下 義人 さん(3年・藤塚)

【写真:右上】

やま もと せ な
山本 瀬奈 さん(2年・折戸町)

「オスー」「イヤア!」「エアアイ!」
日進市在住の二人が通う私立豊田
大谷高等学校(加藤順一校長)。同校の
敷地内の奥まった場所にある空道部
の道場から、部員たちの力強い掛け声
が聞こえてきます。

5月上旬、川下さんと山本さんは、
5月10日に宮城県仙台市で行われた
日本代表選考のための全日本大会に
向けて、練習にラストスパートをかけ
ていました。

空道は、頭部に専用のマスクを着用
し、突き技、蹴りに加えて投げ、頭突
き、肘打ち、寝技、関節技、絞め技など、
さまざまな攻撃が認められる総合武
道です。日本国内には百力所以上、海
外では約60カ国に支部道場があり、実
践性と安全性を重視した武道スポー
ツとして、近年注目されています。

川下さんは、小学1年生のときから
地元・日進市の道場に通い始め、現在
は同部のキャプテンとして「一日の大
半が空道」と言うほど空道尽くしの毎
日を送っています。

「緊張感が高まってきていますが、
それよりも、昔からあこがれていた世
界大会という夢の舞台への最終通過
点となる大会に出られるので、とても
楽しみです」と大会への期待に目を輝
かせました。

一方、山本さんは「去年の大会では、
相手のペースに巻き込まれて負けて
しまい、とても悔しい思いをしました
。今度の大会は、どんな相手に対し

も「夢は、向こうから来てくれるもの
ではないと思います。かなえるには、
自分でそこに向かって行かないと。
日々の練習があつてこそ、大会での優
勝につながるし、それが、自分が必死
になって努力した『成果』だと思いま
す」と大会を振り返りながら、自分を
冷静に見つめ直していました。

そんな二人を指導する同部の山本
監督は、「彼ら二人を含め、この部員
たちは、それぞれが互いを支え合
い、刺激し合つて良い関係を築いてい
ると思います。練習方法に口を出した
くなくても、彼ら自身に気が付いても
らえるように、ときには言いたいこと
をぐつとこらえることもあります。部
員たちには、ここで人としての最低限
の礼儀を学び、これから社会に出る中
で、胸を張って生きていってほしい。
彼らのような子どもたちがもつとた
くさん増えるように、空道というス
ポーツを広めていきたいです」と静か
な口調ながらも、教え子たちと空道に
対する熱い思いを語ってくれました。

「エアアイ」「バシッ」「エアアイ!」「バ
シッ」
力強い掛け声と共に、キレのある蹴
りがミットに打ち込まれます。

「オスー」
あいさつと共に、寝技をかけ、ある
いは寝技をかけられ、そこから自分の
ペースに持っていく練習が繰り返さ
れます。その様子を、山本監督は厳し
い表情ながらも温かいまなざしで見

ても自分のリズムを維持できるよう
に、メンタル面を克服できるかが勝敗
の鍵だと思います」と、大会前の緊張
感と興奮が感じられる真剣な表情で
語ってくれました。

山本さんは、父親であり、同部監督
でもある山本真司さん(48歳)の影響で、
年長クラスのときから空道を始めま
した。大会で負けが続き、「もうやりた
くない」と思ったときもありました
が、高校進学の際には、10年以上取り
組んでいるスポーツなので、きちんと
向き合いたい、と全国で唯一、同部が
ある同校への進学を決意。今では、部
活動以外の場面でも、「オスー」と思わ
ず返事をしてしまうほど、空道が生活
の一部となっています。

全日本大会では、全国各地の成績優
秀者たちによるレベルの高い試合が
繰り広げられる中、川下さんが見事優
勝を決めました。山本さんは、初戦敗
退という悔しい結果になりましたが、
「試合の中で、自分のペースで攻める
時間を持てたので、良い大会になりま
した」とすがすがしい表情でした。

川下さんは「がんばれる秘訣は、常
に成功している自分をイメージし、勝
ちたいという気持ちを維持させること
だだと思います。目標に向かってがん
ばる自分が好きなので、練習も試合中
のけがも全然苦にはなりません。やっ
ぱり気合いが大事。これからも、優勝
を狙って攻めていきます」と屈託のな
い笑顔で答えてくれました。山本さん
守ります。大会後も、変わらない同部
の練習風景。川下さんと山本さんは、
次のステップに向かって、すでに進み
始めています。



5月10日の全日本大会の様子
=豊田大谷高等学校提供

5月10日の全日本大会の様子
=豊田大谷高等学校提供